

## 【取組内容】 自宅からでもできる双方向的なやり取り

## 端末の日常的な持ち帰りによる学習機会の保障と職員の働き方の変化

職員においては、自身もしくは家族の体調不良等で急遽欠勤しなければならなくなった際、従来であればワーク等を自習課題として出したり、他教科の授業に振り替えたりした。

生徒においては、学習をできる体調ではあるが感染症等に罹患しておりやむを得ず登校できない場合も、自宅にあるもので自習をするか安静にしているかしかなかった。

しかし、クラウド環境を活用することで自宅にいながらでも課題の双方向的なやり取りができるようになった。

2024/10/30 (最終編集: 2024/10/30)

おはようございます\*

今日ですが、娘の看病のために1日お休みをいただきます。  
私はいませんが、今日の授業はいつものように『故郷』の課題を進めます。  
以下に指示を書いておりますので、よく読んで進めてください。

今日の目標：  
作品の「主題」となる部分を「深く」考えよう！  
⇒『故郷』の物語における「核心」とも言える部分を考えるのが今日のメイン課題になります。

今日の学習の流れ：  
①今日は漢字なし

②スプレッドシートに目標記入：はじめの5分間

9月12日(木) 自習課題

## 漢詩の基本

## ← 授業者の家族の体調不良により欠勤した際の課題の提示

写真左は、googleクラスルームのストリームにおいて課題や学習の流れを説明したものの。写真右は、学習支援ソフトを使用して生徒へ自習課題を送付したものの。どちらも授業者は自宅から送信している。ワーク等の単純な自習ではなく、授業に繋がる課題を提示できている。



## ← 授業へのリモート参加

各教室に1台、リモート用のChromebookを配置している。感染症を中心にやむを得ず出席できないが、学習に参加できる状態の生徒はリモートで授業に参加している。写真左は、国語科のビブリオバトルにリモートで参加している。写真右は、社会科の授業における話し合いにリモートで参加している。

★生徒にとっても職員にとっても、いつでも、どこでも学習を提供したり参加したりすることができた。